

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	入居者を尊重し、お一人おひとりの意向に沿った支援が行えるよう、独自の理念を作り、玄関や職員の見につく所に明示し実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ感染防止の為、参加できる地域の行事もほとんどないが、自治会に加入し、回覧板を通して地域の小中学校の様子、生活情報を得ながら地域との繋がりをを感じるよう努めている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	認知症サポーター養成研修の案内等、地域に認知症の理解について発信できる情報があれば、オレンジの窓を通じて案内している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議に於いて、当施設の活動状況、入居者状況、事故・ヒヤリハット報告等を行い、地域住民、行政の意見をもとにサービスの質の向上に活かせるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から地域包括支援センターや市の担当者に不明な点は相談し、助言を受けている。生活保護受給者の状況については福祉事務所と連絡を取り、協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会会議において、身体拘束の弊害についてマニュアルに基づき理解を深めている。毎月委員により拘束状況を確認している。日中は玄関の施錠をせず、自由に庭の散歩が行えるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や身体拘束廃止委員会により、身体拘束の弊害や、具体的な禁止行為について学んでいる。身体拘束に繋がらないようお一人おひとりの個性に対応したケアを提供するよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県社協や介護福祉士会、社会福祉士会、地域包括支援センター等が開催する研修に参加し、理解が深められるよう努めている。成年後見制度は、個々の必要性について、活用の相談を関係者で行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の締結や解約又は改定等の際は、重要事項説明書等により、利用者や家族へ解りやすく丁寧に説明し、不安や疑問点はないか尋ね、十分に理解、納得した上で同意を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃から利用者や家族と十分コミュニケーションを図るよう心掛け、意見や要望を傾聴し改善すべき事項に直ぐに対応している。また、意見箱の設置や、相談、苦情受付担当者、第三者委員について掲示し、施設内外に意見や要望を表出しやすいよう努めている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月のユニット会議や職員会議、毎日のミーティング等を利用し、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会としている。出された意見や提案は、管理者定例会や会議録にて報告し、改善に取り組んでいる。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>人事考課制度により、職員は自己の目標を鮮明にし、計画、実行、自己評価を行い、やりがいや向上心を持って働ける仕組みを作っている。介護休暇や産前産後・育児休暇等を取得しやすくし、継続して就業できる環境を整えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員個々の能力や段階に応じた研修を計画し、公平に受講できるよう希望を募っている。また、就業しながら資格取得を目指す職員へのサポートを行い、スキルアップが図れ、やりがいを持って働けるように努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>日本認知症グループホーム協会鹿児島県支部、大隅地区介護事業所連絡協議会に入会しており、研修会に参加し、同業者と相互交流に努め情報交換を行い、サービスの質を高められるよう努力している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居後は心身の状態観察に努め、本人の気持ちに寄り添い、安心して生活が送れるように支援している。入居後暫くは、家族の協力により電話等でコミュニケーションの協力を依頼している。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>施設入居前に施設見学をしてもらい、パンフレットや資料による十分な説明を心掛け、要望や困っている事、不安等はないか尋ね、家族の気持ちに寄り添えるよう努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族等が、どのような事で困っているのか、何を求めているのかを把握し、必要に応じ、他の介護保険サービスや、医療、保健サービス等も説明し、居宅介護支援事業所の紹介も行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者お一人おひとりの能力を活かし、職員は利用者に対し、年齢を重ねた良き先輩として敬い、知識や経験から、お互いアドバイスして貰えるような関係を築いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは随時、面会、電話、通信等で情報交換を行っている。利用者に関する個々の問題解決には、家族の意見を取り入れるようにして絆を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も馴染みの関係が継続できるように、家族の協力を得ながら、行きつけの美容院、病院、外泊、外出、地域住民との交流等行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士が安心して過ごせるよう、ホール内の座席を配置し、円滑なコミュニケーションにより支え合い、助け合って生活できるよう支援している。孤立しがちな利用者に対しては、職員が間に入り、関わりを持つようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご縁を大切にし、必要に応じて本人、家族の相談や支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活状況や会話の中から本人の思いや希望、意向の把握に努めている。本人からの聞き取りが困難な場合は、家族からの情報や職員の気付きも含めて本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴や既往歴、趣味、嗜好等、居宅介護支援事業所等より情報を得て、本人、家族からの詳細な聞き取りにより、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、お一人おひとりの心身の状態や生活を記録し、スタッフ間で情報共有を行っている。月1回のユニット会議等で、評価を行い現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族にアセスメントを行い、解決すべき課題を明らかにし、希望や要望を尋ね、スタッフの意見を取り入れながら介護計画を作成している。状態の変化に応じて、随時現状に即した介護計画の見直しを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活状況記録に、バイタル・食事量・水分量・排泄・入浴等生活状況を個別に記入し、毎日ミーティングやスタッフ帳による申し送りで、全職員が情報の共有に努め、実践や介護計画の見直しに活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況、要望に適切に対応できるようにスタッフ連絡帳を活用したり、毎日のミーティングで話し合い、柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	慣れ親しんだ社会参加の場所や地域の行楽地、生活に必要な相談の場所等を把握し、本人が安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう、必要に応じて支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期、随時のかかりつけ医受診に家族や職員が付き添っている。利用者の健康状態や食事量、体重の変化等を日頃から医師や家族に報告し、連携を密にしている。診断結果は記録し、関係者間で必要な情報を共有している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護ステーション看護師による状態観察時、日々の状態や状態変化等の報告、相談を行い、必要に応じ適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は病院関係者へ情報提供書を速やかに届け、早期の治療に協力し、病院関係者との信頼関係を築いている。退院時には生活上の注意点など助言をもらい、退院後の健康管理に役立っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時は本人、家族に重度化した場合の方針を説明し、同意を得ている。状態変化時は、本人、家族へ医療連携による事業所での対応を説明し、本人、家族の意向を関係機関や全職員で共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時は、マニュアルに沿って対応している。全ての職員が、救命講習会に参加し、応急手当や初期対応の知識を身に付けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接する施設と協力体制を取り、年2回昼間、夜間の想定で消防署の立ち合いの下、避難訓練を行っている。感染症に配慮し、やむを得ず実施できない時には自主避難訓練を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は個人情報の保護とプライバシーについて研修を行い、入室時は声掛けやノックを行っている。排泄ケアは羞恥心や自尊心に配慮して行い、人格の尊重に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活状況の把握に努め、個々に合ったコミュニケーションを心がけることにより、本人の思いや希望を引き出し、自己決定しやすいように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や起床、就寝時間、入浴やレクリエーションなど、利用者個々の生活リズムに留意しながら、希望や状況に応じて柔軟に支援している。職員間の協調性を向上させ、支援の質を高めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	着用する衣類の選択や髪型等は、本人の好みを尊重している。また、言葉による意思表示が困難な利用者については、家族からの情報をもとに、本来の好みを取り入れられるよう努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員はサポートしながら、食事の後片づけや食器洗いなど、利用者のできる能力を活かし、生活意欲を維持できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嚥下状態に合わせて食事形態を調整し、誤嚥を防いでいる。また水分摂取は好みの物を提供する等し、必要量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々のレベルにあわせた道具を使用し、口腔ケアを行っている。口腔内のトラブルは、随時歯科医へ相談している。		
	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄状況を記録し、個々の排泄リズムに合わせて介助している。排泄の感覚に乏しい利用者は表情や体動の変化を察知し介助を行い、できる限りトイレでの排泄を心がけている。失禁の原因等職員で話し合い、共有し改善に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は食物繊維の多いメニューを提供している。水分は摂取しやすい好みの飲み物を準備し、摂取量の確保に努めている。レクリエーションや散歩等により適度な運動を取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回以上入浴できるように計画しているが、ご本人の健康状態や希望に合わせて入浴日を変更している。ご本人の好みに合わせた入浴を提供できるよう、湯温調整や道具を準備している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、散歩やレクリエーションで生活リズムづくりに努めている。重度者は身体に負担とならないよう、離床時間を調整し、静養時間を確保している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は目的・副作用・用法・用量について、お薬情報提供書により、把握している。主治医による内服薬調整後は症状の変化に注視している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物の整理や食事の後片付け等、個々の生活歴や有する能力を引き出し、支援している。また、楽器の演奏や踊り、ちぎり絵の作成等、趣味や楽しみにより気分転換できるよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症の流行により、外出や外泊は制限せざるを得ない状況にあるが、できる限り外気に当たる時間を作り、気分転換できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>職員は、本人がお金を所持し使う事の大切さを理解している。ご家族に相談し、本人希望時は小遣いを準備して買い物できるよう支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人希望時は、いつでも電話できるように支援している。手紙の代筆や代読支援も行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>天井の高い広々とした明るいホールに、対面式の台所やソファの空間・和室が設けてあり、庭が眺められ、休憩やテレビ視聴が楽しめるようになっている。空調や空気清浄機・加湿器等により、室内の衛生・湿度・温度調整を行なっている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>和室や食堂ホール内にテーブル、ソファが配置されており、気の合う利用者同士で語り合い、テレビ視聴、レクリエーション、体操等の活動を行っている。また希望により、ひとりの時間を過ごせるよう、職員が移動を介助し、見守りを工夫している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた日用品や家具、ラジカセ、アルバムなど馴染みの物を持ってきていただき、居心地よく安心して生活していただけるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで、要所所に手すりが設置され段差のない造りとなっている。居室内は個々の状態に合わせて、ベッドの位置を変更し、手すりを増設する等、安全で自立した生活が送れるよう工夫している。		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない



61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない